

令和4年度

視察研修報告書綴

研修日 令和5年1月17日（火）

視察研修地 福岡県豊前市

研修日 令和5年1月18日（水）

視察研修地 大分県中津市

基山町議会

議会運営委員会

令和4年度 議会運営委員会 視察研修報告

1 研修日程、研修策及び件名

- (1) 1月17日 福岡県豊前市 議会改革の取組について、自由討議について
- (2) 1月18日 大分県中津市 議会改革の取組について、自由討議について

2 参加者 議会運営委員会5名、議長1名、議会事務局1名 計7名

- (委員長) 品川 義則
- (副委員長) 河野 保久
- (委員) 末次 明、大久保由美子、松石健児
- (議長) 重松 一徳
- (議会事務局) 井上 克哉

3 研修報告 議会改革の取組について、自由討議について

【研修目的】

議会改革に積極的に取り組んでおり、自由討議について視察・調査することにより、今後の基山町の議会運営に資することを目的とする。

- (1) 1月17日 福岡県豊前市 議会改革の取組について、自由討議について
豊前市の概要

人 口 24,306人 (2022.4.1現在)
世帯数 11,635世帯 (2022.4.1現在)
面 積 111.01km²

福岡県の北東部に位置しており、東は由布市・竹田市に、北西は玖珠町に、南西は大分県中津市に近接している。

豊前市は、福岡県の東南端に位置し、南に修験道の遺跡で知られる求菩提山、天然記念物「ツクシシヤクナゲの自生地」のある犬ヶ岳をひかえ、ここに源を発する岩岳川を中心に豊前平野が扇状に開け、北は波静かな周防灘に面しています。

主要交通網としては、東九州自動車道、国道10号線およびJR日豊線によって構成される東九州ルートが通り、北九州とは北西45km、大分県中津市とは南東7kmの位置関係にあり、京築地域南部の中心都市として位置し、経済的には北九州市と、市民生活や文化面では中津市と深い関係にあります。

【研修内容】

- ① 議会改革の取組について
 - ア 豊前市議会基本条例の制定
平成22年6月議会にて全会一致で可決
議会基本条例の定めるもの
 - ・自由討議の導入

- ・ 請願者の意見を聞く機会を付与
 - ・ 委員会及び全員協議会の公開
 - ・ 反問権の付与
- イ 会派単位による一般質問の実施（平成 21 年 9 月定例会より）
 一般質問の時間 会派 60 分×人数 無所属は 1 人 60 分（平成 28 年 12 月より）
- ウ 予算・決算審査の常任委員会か、常任委員会への複数配置
 1 期目の議員はすべての委員会に入れている。
- エ 議会報告会の実施
- ② 自由討議について
- ア 議会基本条例にも規定している（第 18 条）
- イ 自由討議で出た内容について、執行部に書面による申入れを行い、次年度の定例会で回答を求めている

【研修対応者名】（敬称略）

市議会議長	尾澤	満治
議会運営委員長	岡本	靖清
議会事務局局長	橋本	淳一
議会事務局次長	中川	俊宏
議会事務局主任主査	池上	智泰



(2) 1 月 18 日 大分県中津市 議会改革の取組について、自由討議について

【中津市の概要】

人口 82,626 人（令和 4 年 3 月 31 日、住民基本台帳）
 世帯数 40,334 世帯（令和 4 年 3 月 31 日、住民基本台帳）
 面積 491.44 m²

中津市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面しています。面積は 491.44 k m² で、市域の約 80% は山林原野が占め、山国川下流の平野部に農地が開け、自然豊かで、静かな農村風景が残っています。

大正、昭和を通じて何度か合併が繰り返され市域は拡大し、平成 17 年 3 月 1 日に中津市と下毛郡の 4 町村（三光村、本耶馬溪町、耶馬溪町、山国町）が合併し、現在の中津市となりました。

主要交通網としては、福岡・大分・宮崎・鹿児島各県を結ぶ東九州自動車道、国道 10 号線及び JR 日豊線が走っており、東九州の産業・経済・観光及び文化の発展と生活の向上に重要な役割を果たしています。また、中津港は古くから大阪や神戸、中国地方及び関門地域との交通の要衝として発展してきました。

名勝「耶馬溪」は、日本新三景にも選ばれ、秋には鮮やかな紅葉と耶馬溪溶岩が形成する岩山（岩肌）の数々と相まって、美しい風景があります。

【研修内容】

①議会改革の取組について

ア 意見交換会の実施

各委員会毎に各種団体と意見交換会を行っている。（令和元年以降 14 件）。

イ 中津市議会改革マニフェストの策定

議会が執行部側との緊張関係を保持し、政策立案、監視など議会に期待される機能を十分に果たすためマニフェストを作成

ウ タブレット端末の導入（令和 2 年 8 月）

I C T 特別委員会の設置。資料・労務コストの削減と事務効率等の向上を図った。

エ 「検討・調査」等と答弁した事項に対する報告

執行部から取組状況の報告を受けている。

②自由討議について

ア 議会改革マニフェストの取組として、本会議・委員会における議員間の自由討議を実施。自由討議の議題は会派持ち回り。すべての議員が発言できるよう補足説明は 5 分程度。1 人当たりの発言時間は、1 回につきおおむね 3 分以内。

イ 自由討議を通じて、決議案が提案されるケースがある

【研修対応者名】（敬称略）

町議会副議長	大塚	正俊
議会運営委員長	相良	卓紀
議会事務局次長	榎本	常志
議会事務局主任	梅津	信太郎



4 各委員の所感

【報告者 品川義則】

議会改革について

①議会報告会（意見交換会）

上記の事項に関して両市議会ともコロナ禍を考慮し、市民全体、各地区を対象としていた報告会の開催を改め各種団体とし、参加者も代表等の少人数を招聘して行っている。

また対応する議会も委員会が対応しており、少人数での開催として、新型コロナ対策としても十分な方法ではないだろうか。

そして基山町議会においては、すでに所管事務調査として行っていることから、今後は委員会の調査意見交換会という手法が望ましいのではと一考する。

②自由討論について

上記の事項については両市議会では全く別の手法が取られていた。

豊前市議会では、委員会審査についてより深く緻密な審査を行う手法として用いられていた。

基山町議会でも審査後に行われて入るが、審査中に議案に対して委員の意見要望等を含めた審査を行っているので、豊前市のような申入れ事項を執行部に提出、または委員会報告として行うのであれば、審査の手法を今一度協議するべきではないか。

中津市議会の自由討議手順を行う場合は、テーマをどう提示するのかが重要だと考える。例えば、消防団組織のあり方、国民健康保険税の運営に関してなど町行政全体の課題を用いるべきであろう。ぜひ実施を求めたい。

また、基山町議会は執行部に施策の提案を目的とした政策協議会を立ち上げることを議会改革の一つとしている。自由討議を起点とし、議会の総意として政策提案に取り組むべきである。

【報告者 河野保久】

(1) 福岡県豊前市

平成22年に「市議会基本条例」を制定し、議会改革に取り組んでいる。

新人議員は、勉強の為という大義名分のもと、4つある常任委員会のすべてに配置されている点が、基山町の議会とは大きく異なっている取組であると感じた。

自由討議は、ほとんどの議題において行っており、委員長報告にその内容を盛り込んでいるとのことであったが今一つ、何故そうしているのかの目的がはっきりしなかった。

(2) 大分県中津市

議会改革を進める為に「議会改革マニフェスト」を作成し、議会の姿勢を住民に明確にしている点は、好感を持てた。

① 議会改革の一環として、議員の有志により「政策研究会」を発足し、各々の研究テーマについて意見交換や調査を実施していたようだが、議員の改選ごとに解散され、現在は、一つの研究会を残すだけとなっている。発想としては面白いが現実的には、無理があったように感じた。

② 「検討・調査」と答弁した事項に対する取組状況の報告を、毎年第2回定例会時に、執行部より受けている。基山町議会でも、何らかの形で実施する必要があるのではと感じた。

③ 自由討議の運営方法をきっちりと取り決め本議会・委員会における自由討議を前向きに実施している点は、参考になった。特に1テーマに対する討議時間を「50分」と定め、効率的に行っている仕組みは、素晴らしいと思う。

結びとして

2つの議会の改革の取組の説明を受け、非常に参考になることが多かった。しかし、基山町でもより良い議会にする為に、種々の取組を行っている。議会改革は、

議会の数だけいろいろな形があつていいのでは、と感じさせられた視察であつた。

【報告者 末次明】

(1) 福岡県豊前市 議会改革、自由討議について

豊前市は福岡県東部に位置し、面積は基山町の5倍、人口は26,000人である。平成22年に議会基本条例を制定し、自由討議の導入、反問権付与、予算・決算審査の常任委員会化や一期生議員の全常任委員会への配置など議会レベルアップに積極的に取り組み、市民のため何が出来るかを率先垂範で実施されている。

特に執行部より「検討する」と回答された事項を追跡し、進捗状況を公表するように求めており「議会は言いつばなし」を防止されている。

また、自由討議については各常任委員会ごとに実施して結論が出るまで議論し、委員会として修正案が出せるように工夫がなされている。

基山町議会は各議員が持論（自論）を述べることが多いが、相互に意見を聞きテーマを設けて議論することが少ないので、今後、自由討議を導入していれば更なる議会のスキルアップと町民からの信頼を得ることが出来るのではないか。

(2) 大分県中津市 議会改革、自由討議について

中津市は大分県北西部に在り、基山町の22.2倍の面積に83,000人の人口を有している。平成17年に旧中津市と周辺4町村が合併し、海辺地域と市域の80%を占める山林原野から形成されている。議会改革は合併時から議員数の見直しと旧4町村の過疎化対策に積極的に取り組まれている。

議会改革のマニフェストには議会が執行部と緊張関係を保持し、政策立案、監視など議会に期待される機能を十分に果たすこととされている。本会議のインターネット中継やタブレット端末の導入に先進的に取り組まれ、自由討議を実施し、ルールを決めて毎議会、テーマを出して議員間の討論を進められている。

この自由討議を通じて決議案が提案されるケースもある。基山町議会でもより議論を深めたい事案に対しては一人より二人、二人より議員全員の知恵を集めて議会全体のスキルアップを目指したい。

【報告者 大久保由美子】

(1) 福岡県豊前市

①自由討議の流れについて

本会議の各常任委員会で執行部より議案説明を受け質疑応答⇒執行部退室⇒委員会で自由討議（時間の制約はない）⇒事務局に意見集約して条件付きの文章作成⇒執行部入室⇒委員長が申入れを行い条件付き採決とする⇒次回の本会議にて、執行部から口頭で進捗報告を受ける。

定例会において、ほぼ全議案について自由討議を行い「条件付き採決」を行っている。

②執行部からの予算を伴う事業進捗報告について

新年度や定例会で採決した予算を伴った事業や条例等の進捗状況を執行部から報告

を受けて、早めの事業執行を促している。特に、産業建設委員会の道路関係については、予算を伴っているので進捗を聞いて遅れている事業は理由を質して、早めの予算執行の前倒しを行なうように監視を行いチェックしている。

③議会改革の取組について

- ・平成 25 年 12 月 インターネット中継は豊前市ホームページのみで公開されている。
- ・平成 24 年 議員定数削減～区長会からの請願により 17 名から 15 名となる。
平成 28 年 経常比率の財政悪化により、議会側からの削減で 15 名から 13 名となる。
- ・今後の改革は～タブレット端末導入の検討

自由討議の流れは、議案をより綿密に委員会で討議していることが理解できた。採決は自由討議の結果を、委員会から文書による申入れで「条件付き採決」としている。その後、申入れの進捗状況を執行部より受けてチェックしている点は参考になった。

また、当初予算等での事業を、さらに各委員会で執行部からの進捗報告と質疑応答を行い早期に事業執行を促すチェックも大事なことであるので、本町議会も検討する必要がある研修を活かし提案したい。

(2) 大分県中津市

①議会改革について

- ・平成 16 年 本会議で「検討・調査」等と答弁した事項に対する取組状況を義務づけ、次年度の第 2 回定例会（6 月議会）に一覧表配布とする。
- ・平成 17 年 市議会にみずから様々な行財政改革の取組 政務調査費凍結、議会出席手当の廃止 他
- ・平成 23 年 議会マニフェスト作成 インターネット中継 自由討議運用。12 月本会議で、県下で初めてとなる議員間の自由討議を実施（執行部は出席しない）
- ・平成 24 年 政策研究会の発足 研修・調査（毎改選事に解散）
- ・平成 30 年 各種団体と意見交換会
- ・令和 2 年 ペーパーレス議会によるタブレット端末導入

②自由討議について

平成 23 年から、定例会日程に 1 日間、議員のみでの自由討議が設置されている。

会派による持ち回りで、テーマ（2～3）を出し自由討議を行い、議会運営委員会で議決するか話し合う。様々なテーマを議員間で情報共有している。

自由討議や議会マニフェスト作成、政策研究会、各種団体等との意見交換会など、活発に議会改革による活動が行われている。また、議会改革の中では、これまで財政悪化などで議会自ら政務活動費凍結や議会出席手当の廃止、各委員会の視察凍結なども行われていた。現在、コロナ禍による飲食業界等との意見交換会の実施が続けられている。本町議会は、主に町民との意見交換会のみであり、今後は各種団体との意見交換会の実施も必要と考える。

また、中津市議会の自由討議については、市民や市政の課題を議員間で情報共有することは大変有意義である。一人の議員や会派のみでは解決できない課題や問題等を自由討議で共有すれば、解決も早くなるのではないかと考える。

豊前市とはまた違った自由討議の活用である。本町議会も町民福祉の向上に、議会改革や自由討議について、先進地の学びを参考に意見交換を行い、積極的に活かしていきたい。

【報告者 松石健児】

(1) 福岡県豊前市

豊前市では平成24年3月の改選時に、議員定数を17人から15人に削減。その4年後の平成28年3月の改選時には15人から13人に削減している。平成28年の議員定数削減は財政悪化に伴う議会の判断だが、平成24年は区長会の請願によるものというところが興味深い。基山町でも、議員報酬を増やし定数を削減するという要望が、時折町民から聞かれる。定数13人をこれ以上削減することが妥当かどうか、改めて十分検討する必要があるだろう。

自由討議について、課題の選考、運営については各常任委員長に依頼しているとのことだった。自由討議で出た、議案内容の進捗状況等については申入れにより、次の議会で執行部より書面にて受けるようになってる。条件付き採決が妥当な採決方法かは疑問だが、基山町議会への導入検討の参考になった。また、議員からの条例提案により、こども医療費や保育園の副食費無料化を実施したことは興味深い。

議会会期中のインターネット中継は平成25年12月定例会より導入している。近年、インターネットやケーブルテレビ等を活用して中継を行う自治体が増えてきている。基山町ではYouTubeを活用し後日配信のみである。予算が関係することでもあり、町民ニーズがどの程度あるのか調査する必要があるだろう。その前に、議場の撮影収録カメラも老朽化してきている。先ずは新たな設備への改修の検討が必要だと考える。

その他、オンラインでの視察研修や委員会の開催なども検討しているという。今後、基山町議会としてDX（デジタルトランスフォーメーション）推進に伴うリテラシーについても気づきの多い説明をいただいた。

(2) 大分県中津市

中津市では議会と町民との意見交換会は委員会別に民間の各種組合や医師会、PTA連合会、市内高等学校などに出向く方式をとっている。基山町でも商工会、区長会等との懇談会（意見交換会）は実施しているが、PTAや農業委員会、民生委員児童委員協議会、NPO団体等との実施も検討する必要があるのではないかと思った。市議有志による政策研究会を設置し、調査研究する取組も大変参考になった。

本会議のインターネット配信ではライブ配信も行っており、1定例会当たり約3,000件のアクセスがあることは素晴らしい。基山町の今後の対応は豊前市の記述通りである。

一般質問において、執行部が「検討・調査」と答弁した事項は、毎年第2回定例会にて検討状況の一覧表の配布により報告を受けることとなっている。基山町でも検討状況が不明瞭な事項もあるので、取り入れたい施策だと思った。

自由討議に関して、議題は任期中、会派持ち回りが基本で、『自由討議「テーマ」提案書』の提出により議会運営員会で諮る。採用された場合、定例会での補足説明は5

分程度、議員一人当たりの発言持ち時間は1回につき概ね3分以内と設定されており、具体的な取組内容になっている。私自身、自由討議の実施に関する知識が少なかった
ので、今後の議会活性化に向けて非常に参考になった。但し、基山町議会での起用に
ついては、各議員の適正な活用方法の習得と、定例会の日程への導入について執行部
側と調整を図る必要もあるだろう。今後、議会運営委員会で、より深い協議を行って
いきたい。

